

Suzuki, Hiroshi Oyaizu and Kenju Imai and Drs. Tarô Seki, Shigetoshi Okuda and Satoshi Nakanishi and to the students of University of Kôbe.

\* \* \* \*

1) ヒダノミヤマクマザサはササ属アマギザサ節の1種で、葉裏に毛がある点でミヤマクマザサによく似ているが、それは稈鞘に全く毛がない。それに対してヒダノミヤマクマザサは逆向の細毛が密生しているので容易に区別でき新種と考える。飛驒の高山市やその周辺地域にはきわめて多い。節に開出する長毛があるものを新品種、ケミヤマクマザサと命名した。山口県と愛媛県にまれに産する。

2) ミヤマクマザサはこれまで本州（東北、関東、中部の各地方の太平洋側）と四国東部からだけ知られていたが、中国地方（広島県）、四国西部（愛媛県）、九州（大分県、佐賀県）からも発見され、その分布域が西へ伸びた。四国には節に長毛が密生するものがあり、新品種、フシゲミヤマクマザサと命名した。

3) イブキザサはアマギザサ節の代表的な種で、植物体全体に毛がない。その産地はこれまで伊豆半島、御蔵島、近畿地方および四国が知られていたが、近年長野県から1個所、また岐阜県に多産し、さらに本州西部（広島県、山口県）および九州にまで分布域をひろげていることがわかった。九州には従来アマギザサ節の種は全く知られていなかったが、ミヤマクマザサとイブキザサの2種がはじめて記録された。節に長毛があるものを新品種、イヨイブキザサと命名した。フシゲイブキザサとしたいところだが、別種に先行名があるので、それを避けた。現在、愛媛県の高山の数個所だけが知られている。

□Darsanayake, M. D. & F. R. Fosberg (ed.) : **A revised handbook to the flora of Ceylon. Vol. III.** 24×15cm. 499 pp. 1981. Ameind Publ. Co., New Delhi. 1980年の第1巻、1981年の第2巻につづき第3巻が出版された。その内容を掲載順に記すと、カキノキ科、リンドウ科、イワタバコ科、シソ科、サガリバナ科、ツノゴマ科、ミツガシワ科、クワ科、タコノキ科、ゴマ科、バラ科、アワブキ科、ゴマノハグサ科、マヤブシキ科、ハイノキ科、セリ科の16科が載せられている。ガジュマル、カカッガニ、アダン、アオバノキ、オオイタビなど東南アジアに広く分布するものは日本と共通の種類があり、またアコウの近縁種である *Ficus virens* Ait. や、かつてツルリンドウの変種とされたこともある *Crawfurdia championii* (Gardner) Trimen など日本の植物の種分化を知る上に必要なものもある。

(山崎 敬)